

平成20年度 事業計画書 (ピックアップ)

重点課題

5つの重点課題を設定しました。

①中京区地域福祉活動計画(第二次プラン)の策定・普及

②関係団体・機関・施設等との「つながり」強化

③小地域福祉活動の強化

④中京区ボランティアセンター機能の周知

⑤福祉総合相談事業の推進

具体化に向けた事業・取組

5つの重点課題を具体化させるための事業や取組を事業計画よりピックアップしました。

【①②】具体化に向けた事業・取組み

- (1) <充実> 中京区地域福祉活動計画推進協議会の開催
⇒「第二次プラン」の策定に向けた作業・協議を行う。
- (2) <充実> 『中京区地域福祉活動計画<第二次プラン>』の策定
⇒推進協議会の作業・協議を踏まえて「第二次プラン」を策定する。
- (3) <新規> 「中京区地域福祉活動計画<第二次プラン>」を広める取組み(キャラバン隊)の実施
⇒「第二次プラン」概要版を材料に懇談会等を通じて周知・具体化する。
- (4) <新規> 中京区地域福祉活動計画進捗管理組織の設置
⇒策定された『第二次プラン』の進捗を管理する「第Ⅲ期中京区地域福祉活動計画推進協議会」を設置する。
- (5) <新規> 個人情報の共有に向けた調査・研究
⇒個人情報を共有する為の制度(条例)や体制に関する知識や情報を収集・分析する。
- (6) <充実> 区内生活関連施設(商店街・医師会など)との共働事業実施に向けた模索
⇒中京福祉まつり等でのつながりをもとに事業レベルの共働にむけて模索する。
- (7) <充実> 当事者の各種サロンの開発・支援
⇒孤立しがちな当事者の交流の場の確保に向けた取組みを行う。

【③】具体化に向けた事業・取組み

- (1) <充実> 学区協会の日常的支えあい活動の開発検討(障がい児・者関係)
⇒障がい児・者を対象とした学区協会の開発に向けた検討を行う。
- (2) <新規> 「学区における「地域福祉活動計画」策定事業助成」の実施
⇒学区単位での「第二次プラン」実施プランの策定を促進するためモデル助成を行う。

【④】具体化に向けた事業・取組み

- (1) <新規> 区ボランティアセンター関連情報の流通ルートの開拓
⇒区ボランティアセンターが作成した啓発物等の提供先や提供方法を新たに開拓する。
- (2) <新規> 区災害ボランティアセンターの環境整備及び啓発
⇒「区災害ボランティアセンター覚書」に基づき区行政と連携し、環境整備とPR活動を行う。

【⑤】具体化に向けた事業・取組み

- (1) <充実> 福祉サービス利用援助事業(日常生活自立支援事業)の実施
⇒地域福祉権利擁護事業を推進・実施する。

平成19年度決算報告

勘定科目	金額(単位:円)	勘定科目	金額(単位:円)
1 会費収入	12,054,130	1 人件費支出	26,929,317
一般会費収入	471,000	2 事務費支出	4,632,869
賛助会費収入	11,583,130	3 事業費支出	8,357,433
2 寄付金収入	804,847	4 助成金支出	17,450,274
3 市・府社協補助金収入	19,328,200	5 負担金支出	100,000
4 受託金収入	13,717,169	6 経理区分間繰入金支出	8,712,000
5 事業費収入	2,331,000	7 地域福祉基金積立	0
6 共同募金配分金収入	8,016,835		
7 雑収入	455,251		
8 受取利息配当金収入	7		
9 経理区分間繰入金収入	8,712,000		
10 地域福祉基金取崩金	0		
収入計(1)	65,419,439	収入計(2)	66,181,893
(1) - (2) (20年度繰越金)			△762,454

※正職員人件費は市社協補助金でまかっています。

平成20年度予算

勘定科目	金額(単位:円)	勘定科目	金額(単位:円)
1 会費収入	12,055,000	1 人件費支出	29,280,000
一般会費収入	472,000	2 事務費支出	5,036,000
賛助会費収入	11,583,000	3 事業費支出	7,845,000
2 寄付金収入	753,000	4 助成金支出	17,248,000
3 市・府社協補助金収入	22,571,000	5 負担金支出	100,000
4 受託金収入	15,542,000	6 経理区分間繰入金支出	8,247,000
5 事業費収入	2,370,000	7 地域福祉基金積立	0
6 共同募金配分金収入	7,698,000		
7 雑収入	460,000		
8 受取利息配当金収入	1,000		
9 経理区分間繰入金収入	8,247,000		
10 地域福祉基金取崩金	0		
収入計(1)	69,697,000	収入計(2)	67,756,000
(1) - (2) (21年度繰越金見込み)			1,941,000

べんがらごうし

編集・発行
 社会福祉法人 京都市中京区社会福祉協議会
 〒604-8316 京都市中京区大宮通御池下三坊大宮町121-2
 TEL.075-822-1011 FAX.075-822-1829 http://www.mediawars.ne.jp/fukusi06

～つながり・ささえ・ふれあう
中京のまち(^o^)-

2008年 8月発行

31号



本紙は共同募金の配分金によってつくられています。

特集「中京区地域福祉活動計画(第二次プラン)の概要紹介」



一般に社会福祉といえば、高齢者や児童、障がい者などの分野ごとの法定度や、施設・在宅での専門的なケアサービスなどをイメージされるかもしれませんが、このほかに私たちが身近な地域には、住民、ボランティアや専門家などが自発的に参加・協力して行う民間レベルの福祉活動(地域福祉活動)が数多く存在しています。「中京区地域福祉活動計画」とは、こうした活動に対して、区の地域特性をふまえながら今後の活動をどう進めるべきか

基本的な方向性を示したものです。本プランは二〇〇三〜二〇〇七年度の第一次プランに続く第二次プランであり、計画の有効期間は二〇〇八年度から二〇一二年度の五カ年間で、「第二次プラン」は、策定に向けて最終作業の段階に入っていますが、策定に先立ち、プランの普及のため「概要版」を作成いたしました。今回は、「概要版」の中から、「中京区の地域課題」をピックアップしてご紹介いたします。

第6回中京福祉まつりのご報告

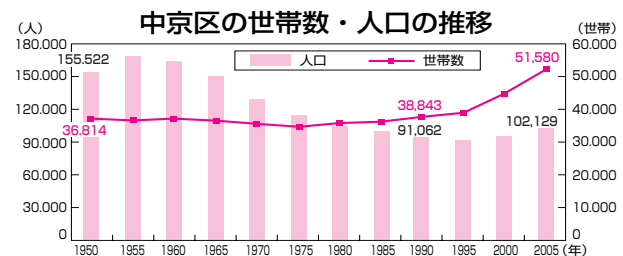


【舞台の様子】 【参加体験の様子】 【乳幼児あそびとくつろぎの広場の様子】 【出店の様子】

去る5月25日(日)に開催され、2,400人も区民の皆さんにご来場いただきました。来年もますます充実したプログラムで開催いたしますので、またご参加いただけない方がおられましたら、ぜひ一度ご来場ください。

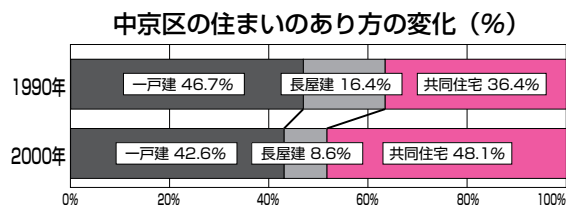
中京区の地域福祉課題

作業過程で寄せられた区民の生の声や生活実態を背景に、中京区の地域特性を照らし合わせプランを策定しました。以下に具体的な作業内容や区民の声を紹介します。



1990年代の中京区の世帯数はほぼ一定を保っており、人口は年々減少をし続ける一方でした。しかし、1995年から2005年までのわずか10年間で**世帯数・人口ともに急激な増加**が見取れ、この期間の世帯数・人口の変化は京都市内で最も高い伸び率を示しています。

住まいのあり方の変化を見てみると共同住宅（マンション）に住む世帯の割合が増加している状況がうかがえます。1990年には36.4%であった共同住宅に住む世帯の割合は、2000年には**ほぼ半数の世帯が共同住宅（マンション）に住む**という現状にあります。



中京区の65歳以上の高齢者のいる世帯の内訳

2005年国勢調査	世帯総数	世帯類型			
		単独世帯	夫婦のみ世帯	三世帯世帯	割合 (%)
一般世帯	50,935	25,765	7,707	1,720	3.4
高齢者のいる世帯	15,438	5,070	4,040	1,882	12.2

共同住宅に住む世帯の増加と関連し平均世帯人数は年々減少しています。2005年国勢調査では1.9人/世帯という数字が示すように、家族構成にも変化が現われてきました。中京区の場合、核家族化の割合が減り、単独世帯が急増しました。2005年には**全世帯の半数は単独世帯**であるという大きな特徴があります。その単独世帯のなかには、学生・会社員も含まれますが、相当数の**高齢世帯**が含まれています。

こうした中で虐待や孤独死、老老介護など今日の社会的な不安が今後高まることが予想されます。

地域分析 住民懇談会 団体ヒアリング 区民集会

実施日：2007年6月11日～7月25日 / 団体数：20団体（当事者団体・ボランティア団体等）

作業委員と事務局数名が団体から「当事者が抱える生活課題」と、「組織運営上の課題」についてお話を伺いました。この団体ヒアリングでは述べ83名の方にご協力いただきました。

団体ヒアリングから以下のような課題が浮かびあがってきました。

生活課題

1. 課題を抱える住民への差別・偏見の克服
⇒福祉学習や日頃からの交流を広げ、当事者理解を広めることが必要です。
2. 災害・急病など万一の場合への対応
⇒障がい者の情報把握が必要です。
3. 福祉に関する身近な情報提供と相談のしくみづくり（活動PR含む）
⇒身近な地域に相談・情報の窓口が必要です。
4. 住民どうしの交流・当事者の仲間づくり
⇒関係が希薄化している現在では孤立を防ぐための取り組みが必要です。
5. 課題を抱える住民の社会参加を支えるしくみづくり
⇒日常的な社会参加や就労を支える仕組みが必要です。
6. 保健福祉サービスの整備・拡充
⇒障害者自立支援法の自己負担増加に不安の声が多く寄せられています。

組織運営上の課題

1. 住民参加を促進し団体運営を支えるしくみづくり
⇒役員のなり手の減少と高齢化により、新しい会員の獲得が必要です。
2. 団体・組織間の連携・ネットワークの強化
⇒当事者も積極的に地域行事への参加や役を担ったりすることが必要です。
3. 団体活動に要する財政基盤の強化
⇒団体活動に必要な資金確保のため、行政や市民からの支援が必要です。

実施日：2007年9月3日～11月30日 / 対象：実施学区の住民・関係機関（ヒアリング協力団体等）

中京区内23元学区ごとに学区社協が主催し、「学区社協の活動説明」と「学区の地域状況説明（国勢調査データ紹介）」、「福祉のまちづくりに関する意見交換」を行いました。述べ871名の方に参加いただきました。

住民懇談会で寄せられた声のうち共通性の高いものを抽出すると、他人への配慮や地域活動への関心が薄れてきていることを危惧する「**住民の意識・マナー**」。地域住民同士のつながりづくりとしての「**交流**」。情報の提供と入手に関する「**情報**」。誰もが住みやすい地域づくりについての「**当事者に関すること**」。活動の担い手や団体間の連携に関する「**地域福祉活動の基盤強化**」。そして、生活の中で感じる不安や改善すべき環境を訴える「**生活環境の整備**」という**6つのキーワード**に絞られました。

寄せられた声をキーワードに即して整理すると以下の6つの課題にまとめられます。



梅屋学区社協

1. 福祉や人権に対する住民の意識の向上
2. 多様な住民が集い交流できる場づくりの促進
3. 情報把握と情報提供の促進
4. 当事者理解の促進と当事者支援の仕組みづくり
5. 活動の担い手づくりの促進と団体間の連携強化
6. 保健福祉施策やサービスの整備と拡充、生活環境の整備

住民懇談会は住民同士が地域のことを話し合い、生の声を交換する場となりました。多くの学区では住民同士が地域課題を共有する大切さを再認識し、懇談会の継続開催を望む声も寄せられています。



生祥学区社協

実施日：2008年3月25日 / 場所：ハートピア京都 / 参加者数：127名



区民集会

区民集会では、第二次プラン策定作業の経過報告と第二次プラン骨子体系図（案）を提案しました。参加いただいた区民からはさまざまな意見が寄せられました。

これまでに行ってきた団体ヒアリングや住民懇談会で寄せられた住民の「生の声」を取りまとめた報告は、地域の実態を把握できるものであり、参加者には、地域の福祉課題について考え、解決に向けどう進めていったらいいのかという思いを持ち帰っていただくことができました。「ボランティアをしてみたい」「障がい者団体の支援をしたい」「災害・福祉マップづくり

が必要だと感じた」という参加者の声からは報告に対する関心の深さがうかがえました。骨子体系図（案）については、プランを実現するにあたり人材や財源の確保に不安を感じながらも、ご自身の学区の重点課題を確認しつつ、「実現しこれからももっと住み続けたいと思える中京の街にしたい」というご意見もいただきました。また、当日は障がい者施設にご協力いただき、当事者の方とともに喫茶や啓発コーナーを設けました。参加者と当事者との交流の場となり、ともに充実した関わりを持つことができたとの声をいただくことができました。



区民集会